
懐かしい、夏の終わりのこの感じ

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

懐かしい、夏の終わりのこの感じ

【Nコード】

N9562A

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

詩です。夏に感じるのって、楽しさで寂しさで嬉しさでむなしさで。色々夏があるように、また夏はやってくるから。

夏なのに暑くないのは風がびゅびゅと吹いているからだ。
じじじ…って虫が鳴いてる。

夏の匂いが地球から。

今年は花火をやってないけど、変わりに空に星が浮かんでる。
それはなんだか、ばーんって大きな音でキラキラ光る花火が散る
寸前みたい。

ちよつとわかりにくいけれど、うん。きっとそんな感じ。

今年も夏はなんだかい気持ち。

朝は暑いけれど、夜はさわさわ涼しい。

田舎の夜は闇ばかり。田舎の夜は虫ばかり。

けどあたしは小さい頃からそれが夏だった。

ちよつと昔、大好きだったあの人と歩いた田んぼの中の道。
稲が風を映し出す。

向こうには山。背には住宅街。

無音の世界は気持ちいいよね。

夏って一年に一回くる。

当たり前だけど。

夏ってちよつと焦ってしまう。
素敵な出会いなんか期待して。
青春。青い春だけどね、夏だってそれはやってくる。

夏ってあたしを寝かせない。

それは長い休みがあるからかな。
よくわからないけれど。

夏って外にいたい。

暑いのに、ちよつと変わってるのはあたしのほう。

そんな夏。

今年はこの辺でお別れかな。

また来年。きつと会えるよ。

とにかく今は、南に行つて、オーストラリアでクリスマスを過ご
しなさい。

でっかい、見えない季節に命令してみる。

からからと笑うけど、本当はちよつと寂しい。

だけどもあ、秋もせかせかとしてることだし。

稲の一部はもう黄金になつてる。

それになんだかお腹もすいてきた。

残つてたスイカでも食べるとしよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9562a/>

懐かしい、夏の終わりのこの感じ

2011年1月27日14時22分発行